

1 「霊山」英彦山

英彦山は北岳(1192M)・中岳(1188M)・南岳(1199.6M)の三つの山頂を持ち、福岡県内では釈迦岳(1231M)に次ぐ標高を誇る。山域は福岡県と大分県の県境未確定地域となっている。山の中腹 500m 近辺に英彦山神宮奉幣殿があり、多くの参拝客が訪れる。山頂には上宮がある。2005年(平成17年)10月には、英彦山神宮へ続く参道沿いに、参道起点の銅の鳥居横から英彦山花公園を経由して参道終点の英彦山神宮奉幣殿へ至る全長 849m のスロープカーが完成し、英彦山神宮奉幣殿まで約 15分で行けるようになった。



英彦山は羽黒山(山形県)・熊野大峰山(奈良県)とともに「日本三大修験山」に数えられ、山伏の坊舎跡など往時をしのぶ史跡が残る。英彦山の開山は、継体天皇の25年(531年)北魏の僧善正上人の入山に始まる。さらに日田藤山村の恒雄が善正に師事して忍辱上人と称し、彦山霊仙寺の基となる草庵を開いたと伝えられている。この霊仙寺は明治の神仏分離までは、天台修験の別格本山として栄えていたが、以降旧境内地が英彦山神社となった。現在、霊仙寺の法灯を受け継ぎ、新たに霊泉寺として復興して、銅鳥居のすぐ右側にある。神話では天照大神の子が来臨して鎮座したので「日子山」となったといわれている。平安時代の弘仁10年(819年)、法蓮上人が嵯峨天皇の勅令で上洛し、日子山を「彦山」に改め、七里四方に及ぶ寺領を賜る勅願寺になる。

その後、鎌倉時代までに49の窟が整備され(「彦山流記」1213年)、山伏の修業が盛んになる。室町時代になると英彦山は、神事色が強まり、峰入りという修験道独特の修業が始まるようになった。英彦山より、宝満山、福智山に出て、得度を積む修業が始まった。

戦国時代になると、各大名は血族を彦山座主に据えようと争いがおこり、特に豊後の大友宗麟との確執が大きく、多くの堂宇が焼き払われてしまった。その後、豊臣秀吉の九州平定の折に、七里四方の神領すべてを没収されてしまった。

江戸時代に入ると、小倉藩主細川忠興や佐賀藩主鍋島勝茂らの各地大名から多大な庇護を受けた。参道にある銅鳥居は寛永14年(1637年)にその鍋島勝茂によって建立された青銅製の鳥居である。鳥居正面の「英彦山」の扁額は享保14年(1729年)に霊元法皇によって下賜されたものであり、このときに「英」の字をつけた「英彦山」と称されるようになった。

今回通る雲母坂は英彦山参詣道の日田道として日田から貝吹峠を越え雲母坂に入り、また、小倉往還の分岐となる唐ヶ谷追分とも重なり参詣の起点となる重要な場所である。入口の石碑には雪や雨の難行を防ぐため河原から石を集めてきて600m以上の石が敷き詰められたと記されている。現在ではそのうちの200m余りが残っている。

2 大会コースのルートガイド 太字下線は主要地点

彦山駅から英彦山青年の家へ（1日目：隊行動）

彦山駅の駅舎を出て左へ150mほど進むと、三差路になっているのでこれを左に曲がり、踏切を渡る。車道を道なりに登っていき、2kmほど歩くと林道別所河内線の分岐（別所河内）があるが、この日はまっすぐ登っていく。さらに2km強歩くと、県道418号線に突き当たる。この道は九州自然歩道にもなっており、英彦山青年の家まで、この九州自然歩道を行くことになる。具体的にはこれを右に曲がり、県道を150mほど進んだところ（北坂本）で左に曲がる。途中、シカ除けのネットなどを通過して、行くと国道500号線に出る。この国道500号線をショートカットするように3回横切りながら進み、英彦山野営場、スキー場を経て、英彦山青年の家に至る。

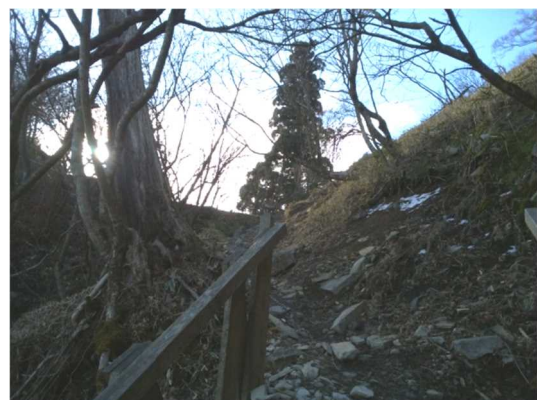
英彦山青年の家から（2日目：隊行動）

英彦山青年の家前の九州自然歩道に入り、左へ進む。国道500号線に「63カーブ」のところで出るので、左にこの車道を進み、高住神社へと上がる。石段を上がっていくと、右手に樹齢900年近くの御神木である「天狗杉」が出迎えてくれる。この木のすぐ後ろの階段を上ってもよいし、まっすぐ進み社殿でお参りしてから右に入ってもいいだろう。

とにかく、この境内から登山道が始まっている。砂防ダムの左側を上がったりしながら登っていくと、凝灰角礫岩でできた岩石群があり、400万年前の火山活動の跡がうかがえる。また、この辺りにはヒノキ、ツクシシャクナゲ、ゲンカイツツジ、イワタバコ、イワギボウシなどが生育している。さらに行くと望雲台分岐があり、ここは北岳・中岳（上宮）方面へ進む。急な岩場を登っていくと、木の階段がつくってあり、これを登りきったところがいわゆる「一本杉」と呼ばれている鞍部である。この辺りは落石させないように注意して歩こう。この鞍部を右に進路を取り、少し進むと岩場にロープがかけられはしごが設置されたところに出くわす。道が崩壊し新しく階段が設置されているが、慎重に登ってほしい。この難所を越えると眺望がよくなり東側に鷹ノ巣山がさらに視界がよいと由布岳や周防灘がみえてくる。このまま登っていくと北岳に着く。ただし、ピークは神仏習合時代からの聖域となっており、足を踏み入れることはできない。



高住神社の入り口



一本杉

ここから中岳に向かって行く途中は、西日本有数のブナ林で、その林床をクマイザサが埋めているのが特徴であるが、1991年の台風19号により大きな被害を受けている。現在、ブナ林再生のための活動がなされているが、シカの食害もあり思うように進んでないよう見受けられる。このようなところを進んでいくと、**中岳**



英彦山神宮 上宮

中岳から南側を見ると阿蘇五岳が見えそこから東側にくじゅう連山、由布岳と素晴らしい展望がひらけている。中岳を越えると南岳方面と奉幣殿に向かう正面参道の分岐があるが奉幣殿に向かう。石段を滑らないように注意しながら下って行くと北側に油木ダムや山の上半分近くを削り取られた香春岳、更にその奥に福智山が見える。



英彦山神宮 奉幣殿

下り始めて最初にある神社が**産霊神社**（行者堂）である。更に関銭の跡、稚児落を通過し右側に北西尾根ルートへ向かう**もみじ谷分岐**を通過していく。次に中津宮（中宮）を横に見ながら通過すると鎖場がある。左側を巻いて降りる事も出来るがどちらも注意して降りていきたい。更に進むと英彦山神宮の奉幣殿に着く。奉幣殿からは参道を下っていき、**銅鳥居**をくぐると、国道500号線を横切る。この先も参道の続きであるが、少々石段が壊れかけているところもある。赤い鳥居の新森稻荷神社、八龍地藏尊を通過し車道と歩道を繰り返すと道が雲母坂の特徴である石畳になってくる。雲母坂が終わると南坂本のバス停があり国道500号と合流する。あとは国道500号線を右へ曲がり英彦山方面へと下って行く。この道は交通量も多いので1列で注意しながら進みたい。時々左側に彦山川を見ながらなおも歩いていくと**彦山駅**へ到着する。



銅鳥居下の国道を横切る

※ 平成27年度全九州高等学校体育大会 第58回全九州高等学校登山競技大会予報第1号をもとに、平成31年4月及び令和2年12月に現地調査の上、加筆修正。